

■遣迎二尊板碑 (県指定重要文化財 平成 10 年 3 月 24 日指定)

遣迎二尊板碑（けんげいにそんいたび）は、平成 10 年 3 月 24 日に県の重要文化財に指定されています。

有漢町土居地区の旧県道沿いにあり、正尺屋敷の入り口にあたり、お大師巡りの八番札所明開寺と呼ばれる場所である。ここに小堂が建ち、その中に祀られている。

高さ 98cm、幅は上部が 26cm、下部が 32cm の板碑である。頭部は三角の山型で、正面上部に発遣の釈迦如来、来迎の阿弥陀如来立像を刻み、下部の建碑の趣旨・年号が「右志者為父死十三年 見在長為母也 嘉元四年八月時正」（1306）と彫られている。作品の優れた出来栄と年号などから井野行恒の作に違いなく、願主は秋庭氏であろうとされている。